

2

景観づくりの将来像と方向性

2

景観づくりの将来像と方向性

1) 景観づくりの将来像

国立の景観は多様で個性的です。北部には、計画的に整備された整然としたみどり豊かなまちなみがあり、年輪を刻むにつれ風格を増しています。南部には、多摩川に至る河岸段丘、崖線、さらには田園地帯が、古くからの集落を包みながら展開しています。それらはいずれも長い歴史の中で培われ、相互に共存することで国立独自の景観を育んできました。

先人が培ってきたこの良好な景観をさらに魅力的なものへと進化し続けるため、国立の貴重な財産であるという意識のもと、後世へ引き継ぐことが重要となります。

市民、事業者、まちづくり関係団体、行政など、景観に関わる多様な主体が共通の認識のもとに国立の景観の価値を理解し、継続的な協働を通じて国立の将来像を実現します。

2) 景観づくりの方向性

景観づくりの将来像の実現に向けて、国立の景観づくりのために必要な取組みの方向性を次の6つにまとめました。

これらの方向性は国立の景観構成要素をもとに複合的に重なり合うもので、組み合わせる場合もあれば、一つに特化するものもあります。方向性を踏まえて、行政が先導的な役割を果たしつつ、市民や事業者とともに景観づくりに取組みます。

6つの方向性

- 1 | 景観資源の保全と資源を核にした地域の魅力づくり
- 2 | 骨格となるみちのシンボル性の向上
- 3 | 個性を活かした多様なにぎわいのあるまちなみづくり
- 4 | 落ち着きのある住宅を中心とした景観づくり
- 5 | 農を感じる景観づくり
- 6 | 周囲に比べ高さや大きさのある建築物の景観的工夫

将来像

都市とみどりが共存した美しい文教都市くにたち



方向性 1 | 景観資源の保全と資源を核にした地域の魅力づくり

国立の特徴的な自然や歴史文化、人々の活動は、国立らしさの核となる大切な景観資源です。これらの景観資源を守るだけでなく、周辺の市街地が景観資源に配慮することで、地域全体の魅力の向上につなげます。



崖線の地形を活かし、崖線から農地に連続するみどりや湧水を一体的に保全します。水辺の潤いと広がりのある環境を保全し、水に親しみ様々な活動を楽しめる景観づくりを進めます。

地域に継承された歴史的資源を保全し、国立の歴史を感じる景観づくりに取り組めます。古くから地域に伝承されている伝統行事を市民とともに守り育て、祭礼に配慮した景観づくりに取り組めます。

文教地区としての風格を感じさせる大学や学校を歴史や文化を伝える資源として保全します。

武蔵野の面影を感じることでできる武蔵野の雑木林を関係者とともに維持します。

公園や緑道などの身近なみどりを適切に管理し、民有地とあわせてみどりの連続性を確保します。

地域の暮らしやすさを高めるためのコミュニティ活動を支援し、将来に継承します。

方向性 2 | 骨格となるみちのシンボル性の向上

国立の骨格となる道路は、国立を印象づけるために欠かせないものです。道路空間としての充実だけでなく、沿道のまちなみと道路が一体となった景観づくりに取り組むことでシンボル性をさらに高めます。

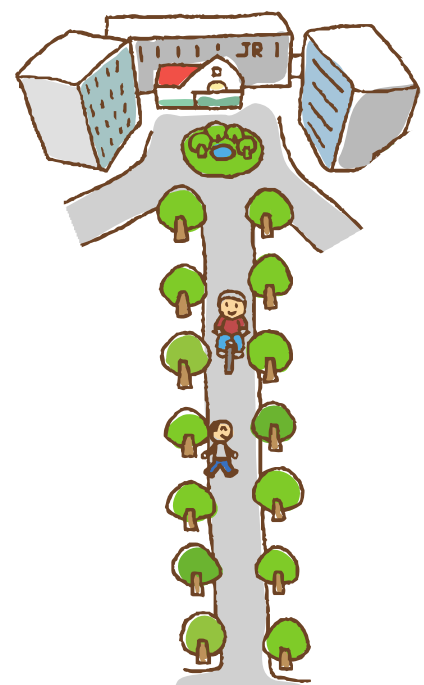
自転車と歩行者が安全に通行し、歩いて楽しめる空間を整えます。

四季を感じる街路樹を保全します。

道路空間と沿道の市街地が一体となった景観づくりを誘導します。

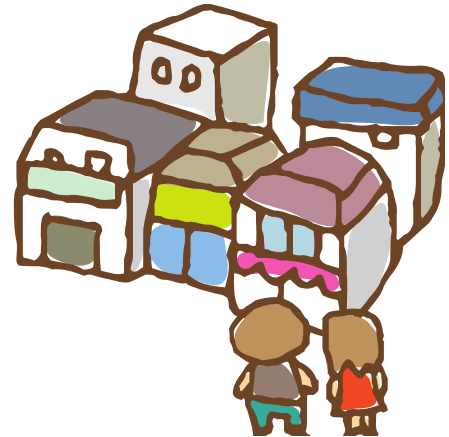
富士山への優れた眺望のある富士見通りなどでは、視点場から富士山への眺望を確保します。

旧街道として国立の歴史を感じる道路空間を整え、道路沿道では歴史的な趣を感じる落ち着いたまちなみを目指します



方向性3 | 個性を活かした多様なにぎわいのあるまちなみづくり

駅周辺や商店街、産業の拠点など国立の多様なにぎわいが、国立のまちなみを魅力的にしています。地域の歴史やまちなみの特徴を把握したうえで、個性を活かしたまちなみづくりに取り組み、訪れたいくなるような魅力を高めます。



来訪者や地域の住民など様々な人が集まる、まちの個性にあったにぎわいのある景観づくりに取組みます。
工業系の建築物等と周辺の農地や住宅地が調和した景観となるように、国立の産業拠点としての魅力の向上を図ります。

方向性4 | 落ち着いたある住宅を中心とした景観づくり

文教地区を中心とした低中層の住宅地は、国立らしい落ち着いた生活空間のある地域です。大正時代に開発された豊かな空間を継承するとともに、新しい住宅地においても豊かな環境を生み出すことで、住みたいと思える住宅地づくりを目指します。

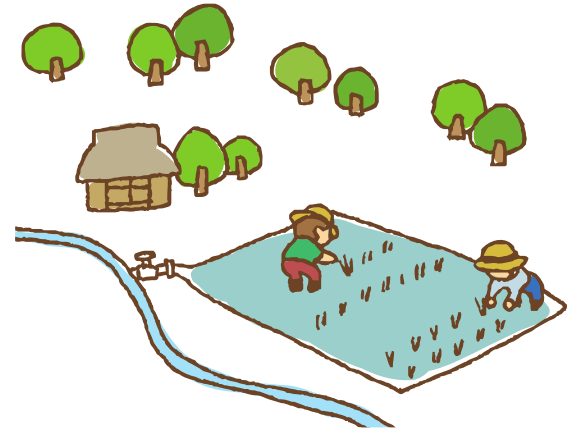


文教地区内の低中層の住宅地では、開発当時から継承されるゆとりあるみどり豊かな環境や周辺と調和した落ち着いたまちなみを保全します。

大規模団地を中心としたまちづくりでは、周辺と調和した落ち着いた住宅地景観を誘導します。

方向性5 | 農を感じる景観づくり

南部にある農地を中心としたみどり豊かな市街地は、国立の昔の姿を今に伝える貴重な景観です。農地を守り、農地と共存した市街地の景観づくりに取り組むことで、農を感じる国立らしい住宅地づくりを目指します。

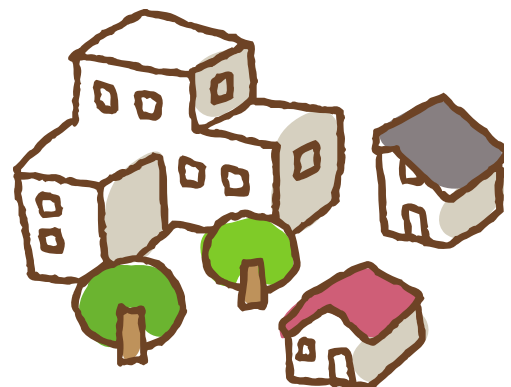


適切な土地利用を誘導することで農地や樹林地、用水が一体となった農のなりわいを感じられる景観を保全し、暮らしと身近ななりわいの景観として継承します。

屋敷林とお屋敷が一体となったゆとりある敷地やみどりの保全を支援し、国立が農村だったころの面影を感じられる住宅地の景観づくりを進めます。

方向性6 | 周囲に比べ高さや大きさのある建築物の景観的工夫

ゆとりある敷地では、周囲に比べ高さや大きさのある建築物を建てることができます。地域の特性や様々な位置からの見え方などを十分に配慮し、周辺環境に配慮した計画となるように景観的な工夫をすることで、地域の新たな魅力づくりを行います。



公共施設は市民の暮らしに密接に関わっていることから、整備目的に沿った役割を果たすだけでなく愛着と誇りを持つことができるような先導的な景観づくりを進めます。

大規模団地を中心としたまちづくりを行う際には、隣接する市街地の住環境や景観、眺望に配慮した空間を形成します。